

平成 25 年度  
秋田県合同輸血療法委員会

秋田県  
秋田県赤十字血液センター

# 第16回 秋田県合同輸血療法委員会プログラム

日時 平成25年11月12日（火）13時00分～17時00分

会場 県庁第二庁舎大会議室

総合司会 杉野 哲（医務薬事課）

## 次第

- 開会挨拶 (13:00～13:10)

秋田県健康福祉部 健康医療技監

山本 要

秋田県赤十字血液センター 所長

面川 進

- 報 告 (13:10～14:10)

「模擬I&Aを受審して」

市立秋田総合病院臨床検査科

松橋 博之

秋田大学医学部附属病院輸血部

能登谷 武

「血液製剤使用状況等に関するアンケート調査結果」

秋田県健康福祉部医務薬事課

三保 憲治

「患者中心の輸血医療＆輸血管理の担い手育成に関するアンケート調査結果」

秋田県合同輸血療法委員会

阿部 真

- 特別講演 (14:20～15:20)

座長 秋田県赤十字血液センター所長

面川 進

『患者中心の輸血医療 Patient Blood Management』

北海道大学大学院医学研究科

内科学講座血液内科学分野 教授

豊嶋 崇徳 先生

## Coffee Break

- 討論主題 (15:30～16:50)

『患者中心の輸血医療を目指して』

座長 雄勝中央病院 副院長

天満 和男

市立秋田総合病院 心臓血管外科

星野 良平

アドバイザー

豊嶋 崇徳 先生

話題提供 1 明和会中通総合病院看護部

村上 美佳子

話題提供 2 大館市立総合病院臨床検査科

小塙 源儀

話題提供 3 秋田大学医学部附属病院輸血部

藤島 直仁

- 閉会挨拶 (最大延長～17:00)

※秋田県合同輸血療法委員会への参加は、日本輸血・細胞治療学会、学会認定・臨床輸血看護師の業績に関する基準単位が認められており、出席者には参加証明書を配布します。

## 開会挨拶

秋田県健康福祉部健康医療技監 山本 要

本日はお忙しいところ、第 16 回秋田県合同輸血療法委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日は本来であれば部長の梅井が皆様の前でご挨拶申し上げるところでございますけれども、私用で出席できませんので代わりに私の方から委員会の開催に当たりまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

先ず本日ご出席の皆様方におかれましては平素から県の医療行政にご協力いただきますとともに地域医療の推進にご尽力いただいておりますことを重ねてこの場をお借りいたしまして心からお礼申し上げたいと思います。また院内における輸血療法委員会の設置や血液製剤の一元管理の推進等、平素から血液製剤の適正使用に積極的に取り組んでいただいておりますことに重ねて感謝申し上げたいと思います。

さて、ご承知の通り血液製剤というものは人体から採取された血液を原料とする有限で貴重なものであります。このため患者に真に必要な場合に限って血液製剤を使用する等、適切且つ適正な使用を一層推進する必要が有るところでございます。また血液製剤の安定供給を確保するためには、献血者の善意に応え県民一人一人の理解と協力が重要であると考えております。

本県における献血の状況を見てみますとここ数年は約 52,000 人の方から毎年ご協力を頂いている状況であり、また毎年 17,000l 超の血液を献血で確保している状況でございます。本県では少なくとも現時点では需要に見合う血液は概ね確保できていると考えて宜しいかと思いますけれども、県人口を見てみると平成 32 年までには 100 万人を割り込み、平成 42 年には 83 万人、平成 52 年には 70 万人を切るものと予想されており、また少子高齢化の進展も相まって今後血液の確保は課題になるものと見込まれます。

こうしたことから県では血液製剤の安定供給の確保を図るため、秋田県赤十字血液センターと協力しながら将来の献血の担い手となる若年層を中心として、献血に関する普及啓発の取り組みを強化する他 400ml 献血を中心とした献血キャンペーンを行なう等、将来を見据えて普及啓発活動の強化に努めているところでございます。いずれに致しましても血液製剤の供給側である献血による血液の確保と使用側である医療機関の適正使用という両面からの対策というものが今後必要であり、今後とも関係者の皆様方と連携しながら様々な対策を講じて参りたいと考えているところでございます。

本日でございますけれども北海道大学大学院医学研究科内科学講座血液内科学の豊嶋嵩徳先生をお招き致しまして『患者中心の輸血医療 Patient Blood Management』についてご講演をいただくこととなっております。また医療現場の方々から話題提供いただく等においても豊嶋先生からのご助言をいただくこととなっております。皆様方におかれましても本日のこの委員会で得た知見を今後の血液製剤の適正使用に是非ともお役立ていただきたいと考えております。

結びに本日ご出席の皆様方におかれましては血液法の基本理念である血液製剤の国内需給を達成するため献血や医療機関における血液製剤の適正使用の尚一層の推進について重ねてお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝とますますのご活躍を祈念致しまして私からの挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願ひ致します。



## 秋田県赤十字血液センター所長 面川 進

皆さんこんにちは。秋田県赤十字血液センターの面川でございます。今回の秋田県合同輸血療法委員会の代表世話を努めさせていただいております。平成10年に第1回を開催しており、今回は第16回の秋田県合同輸血療法委員会になります。

毎年、可能なら11月の上旬に開催し、今日のような悪天候のことがなければいいのですが。本日は昨日からの雪と冷え込みで大変気候が厳しい時の開催となりました。しかし、多くの皆様にお集りいただいて大変感謝を申し上げます。

先ほど第1回が平成10年、1998年と申しましたが、実は秋田県の合同輸血療法委員会は全国で2番目に古くできた合同輸血療法委員会です。我々の1年前の1997年に福岡県で全国で初めて合同輸血療法委員会、当時は輸血療法委員会合同会議と称しておりましたが、我々もそれに習って1998年に第1回を開催しました。全国的に見ても非常に歴史の古い合同輸血療法委員会でありますので、これは我々が自負すべきことあります。この会は各医療機関の輸血療法委員会の皆様にお集りいただきまして、輸血療法の抱える色々な問題点、その時々のトピックスについてお話ししていただき日々の診療に役立てることを目的として開催しております。

それともう1つ、今回ご報告することは、今年の事業も厚生労働省の血液製剤使用適正化調査研究事業で、それに対して採択された事業であることも付け加えさせていただきたいと思います。これも随分前、平成18年からであります。平成10年に第1回が開催された当時は秋田県医務薬事課等のご協力をいただきまして、県の予算を使わせていただいて開催してきました。それがいろいろ国の方針とかが変わりまして厚生労働省の事業として応募して、それに採択されて事業として行なうような体制になったのが平成18年からです。

今回は勿論応募して採択されました。平成25年度厚生労働省の調査研究事業に応募した都道府県は24都道府県ございました。24団体そのうち採用されたのが10団体10都道府県であったということになりますが、その中で秋田県は今回順番的に言いますと9番目の採択であったということになりますが、ですからぎりぎりでした。11番目からですと不採用になり、不採用になると何処から予算を工面して開催するかということを考えねばなりません。例年この厚生労働省の調査研究事業に応募して、より良い順位2番とか3番、1番になったこともありますが最近落ちてきていますので、そこら辺は気持ちを入れ直して来年の話になりますが来年度もこの調査研究事業に応募するようよく事業内容を検討し、皆さんと一緒に会を継続していきたいと思っています。

さて、今回は先ほどご紹介もありましたが北海道大学の豊嶋先生に特別講演をしていただく予定でございます。聞き慣れない言葉ですがPBMについてです。『患者中心の輸血医療 Patient Blood Management』ということで、何だろうということを思う方も多いいらっしゃると思いますが、今年の日本輸血・細胞治療学会等ではトピックになっている単語でございます。今回のご講演を是非秋田県の皆様にもお聞きいただいて、患者中心の輸血医療について理解を深めていただければと思います。また、今回も各医療機関からのご発表もございますので、それも含めて更なる輸血医療の向上に努めるような会にしていきたいと思います。

本日は午後5時頃までかかる長い会でございますが、皆様の現場からの活発なご意見等を頂戴して有意義な会にしたいと思いますのでご協力を宜しくお願い致します。

本日はどうぞ宜しくお願ひ致します。



## 【報告】

「模擬 I&A を受審して」

市立秋田総合病院臨床検査科

松橋 博之

秋田大学医学部附属病院輸血部

能登谷 武

杉野（総合司会）：ありがとうございました。山本技監は所用によりここで退席いたします。続いて本日の日程でございますけれども、午後5時まで予定しております。内容と致しましては、報告、特別講演、10分間の休憩を挟んで討論の順で行ないます。それでは早速プログラムの報告に入ります。

「模擬 I&A を受審して」2つの施設から報告いただきます。2つの報告を終えてから質疑に入りたいと思いますのでよろしくお願ひ致します。始めに市立秋田総合病院臨床検査科の松橋様からご報告をお願い致します。



松橋（市立秋田総合病院）：市立秋田の松橋と申します。よろしくお願ひします。それでは始めさせていただきます。スライドお願ひします。

平成25年度秋田県合同輸血療法委員会 平成25年11月12日(火)

## 模擬I&A実施報告

市立秋田総合病院  
松 橋 博 之

### 施設概要

□ 病床数 458(一般:376、精神60、結核22)

診療科26科 平均入院患者 367人

平均外来患者1234人

電子カルテ未導入(再来年導入予定)

□ 輸血部門

輸血申込は帳票、アルブミンは薬剤オーダリング

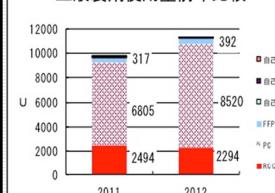
輸血管管理料 I (アルブミンは薬剤部と共同管理)

2002年に 模擬I&A受診

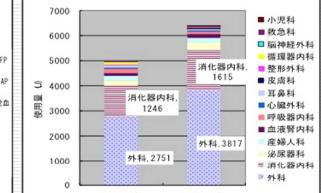
始めに簡単に当院の概要です。こちらの通りで当院はベッド数 458、診療科 26 科を有する二次救急指定の公立病院です。電子カルテは未だ導入しておらず、オーダリングシステムのみ、輸血申し込みに関しては今だ帳票による状況です。管理料 I の方は申請しておりますけれども適正使用加算は今年の 4 月から追加しているといった状況です。本委員会主催によるに模擬 I&A に関しましては 2002 年に初めて受審しておりまして今回 2 度目の受審となっております。

### 輸血量(2011年、2012年)

血液製剤使用量前年比較



アルブミン製剤使用量前年比較



輸血量ですけれども 2 年分の使用量を提示

## 【報告】

### 「血液製剤使用状況等に関するアンケート調査結果」

秋田県健康福祉部医務薬事課

三保 憲治

### 「患者中心の輸血医療＆輸血管管理の担い手育成に関するアンケート調査結果」

秋田県合同輸血療法委員会

阿部 真

司会：血液製剤使用状況に関するアンケート調査報告を秋田県健康福祉部医務薬事課の三保から報告致します。

引き続きまして患者中心の輸血医療及び輸血管管理の担い手育成に関するアンケート調査結果を秋田県赤十字血液センターの阿部部長から報告致します。

宜しくお願ひ致します。



三保（健康福祉部医務薬事課）：宜しくお願ひ致します。県庁医務薬事課の三保といいます。日頃血液事業の推進につきまして、ご理解・ご協力頂きましてありがとうございます。それでは事前に皆様にご協力頂きました血液製剤使用状況等に関するアンケート調査結果の報告を致します。

### 血液製剤使用状況等に関する アンケート調査結果

平成25年11月12日  
第16回秋田県合同輸血療法委員会  
秋田県健康福祉部医務薬事課

#### 調査の概要

1. 調査対象施設  
年間100単位以上供給施設及び過去に調査した施設  
59施設
2. 調査対象期間  
平成25年1月1日～6月30日
3. 回収率  
98.3%
4. 血液製剤使用割合（供給数に対する割合）  
98.6%（供給91,487単位、使用90,171単位）

始めに調査の概要ですが、こちらの調査毎年行なっておりましてお分かりかと思いますけれども、調査の対象施設年間100単位以上の供給施設、それから過去に調査した施設併せて59施設ということになっております。

調査の対象期間は今年1月1日から6月30日の半年間にとなっております。

アンケートの回収率は98.3%でした。59施設中58施設から回答をいただいております。血液製剤の使用割合、供給数に対する割合で

**【特別講演】**

座長 秋田県赤十字血液センター所長 面川 進

**『患者中心の輸血医療 Patient Blood Management』**

北海道大学大学院医学研究科

内科学講座血液内科学分野 教授

豊嶋 崇徳 先生



面川座長：

それでは、第 16 回秋田県合同輸血療法委員会の特別講演を開始いたします。座長を拝命いたしました秋田県赤十字血液センター所長の面川でございます。

今日は講師といたしまして、北海道大学の血液内科の豊嶋孝徳先生をお迎えしております。

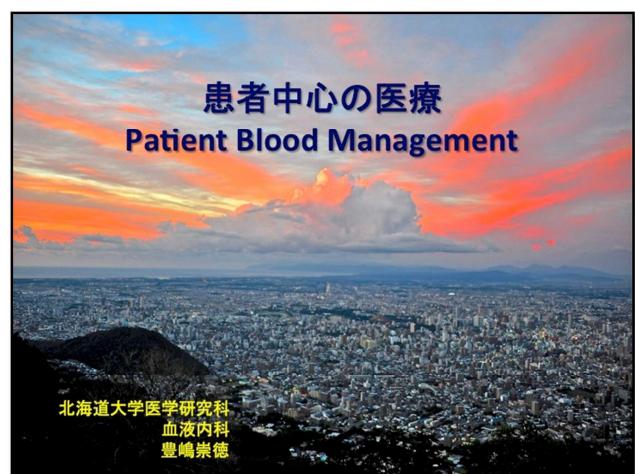
恒例でございますので、豊嶋先生のご略歴を簡単にご紹介いたします。出身は鳥取県でよろしいですか。豊嶋先生は鳥取県のご出身でいらっしゃいます。昭和 61 年九州大学医学部をご卒業し、九州大学の内科の研修医をなさっていらっしゃいます。平成 5 年には北九州市立医療センター、平成 8 年に岡山大学第二内科の助手、平成 9 年には米国の ダナ・ファーバー癌研究所にご留学されておられますし、平成 12 年にはミシガン大学内科のファカルティメンバになられておられます。平成 14 年に岡山大学第二内科にもどられ、平成 16 年から九州大学病院の遺伝子・細胞治療部の准教授にご就任なさっております。九州大学というのは、大学病院輸血部のなかでも、昔から輸血部として活動している組織でございます。昨年には、平成 24 年から、現職でいらっしゃいます北海道大学大学院医学研究科血液内科教授として、ご就任されていらっしゃいます。元々、血液内科、移植療法をご専門としていらっしゃる先生でいらっしゃいますが、輸血・細胞治療学会等でも活躍なさっている先生でございます。今日のテーマでございます Patient Blood

Management の言葉を聞いたことがない方がいるかもしれません、これに関し日本のトップランナーでございまして、一番お話を聞きしたい先生でございますので、今日、お呼びした次第でございます。



豊嶋先生：面川先生、どうもご丁寧なご紹介ありがとうございます。北海道大学の豊嶋です。

今日はこのような輸血の伝統のある秋田県にお呼びいただきまして、さきほども、色々講演を聴いておりまして、地域によって、いろいろな特徴があるなと思って聞いておりました。それではお願ひします。



## 【討論】

### 『患者中心の輸血医療を目指して』

座長	雄勝中央病院 副院長 市立秋田総合病院 心臓血管外科 アドバイザー	天満 和男 星野 良平 豊嶋 崇徳 先生
話題提供 1	明和会中通総合病院看護部	村上美佳子
話題提供 2	大館市立総合病院臨床検査科	小塙 源儀
話題提供 3	秋田大学医学部附属病院輸血部	藤島 直仁

司会：時間になりましたのでプログラムの討論に入りたいと思います。討論のテーマは『患者中心の輸血医療を目指して』と題しております。

初めに、それぞれの立場から話題提供として中通総合病院看護部村上様、大館市立総合病院臨床検査科小塙様、秋田大学医学部付属病院輸血部藤島様の3名から発表していただきます。

座長を雄勝中央病院副院長天満先生、市立秋田総合病院心臓血管外科科長の星野先生のお二人にお願い致します。それでは先生方壇上にお上がりください。また豊嶋先生にはアドバイザーとしてご参加いただきます。宜しくお願ひ致します。



天満：皆さんこんにちは。討論主題の座長をさせていただきます雄勝中央病院の天満です。宜しくお願ひ致します。

星野：同じく市立秋田総合病院の星野と言います。宜しくお願ひ致します。

天満：先ほど豊嶋先生がご講演いただいた患者中心の輸血医療というのは十分ご理解いただいていたかとは思いますけれども、今日我々の方から3人の方に話題提供ということでお話をし

ていただきます。看護部からそれから検査部の立場から、大学病院輸血部の先生の立場で、この3人から話題の提供をしていただきたいと思います。ひとつひとつその都度皆さんからご意見頂いていこうと思いますので、何卒宜しくお願ひ致します。

では最初の話題提供1、盟和会中通総合病院看護部の村上さん宜しくお願ひ致します。

#### 学会認定・臨床輸血看護師が考える 患者中心の輸血医療

社会医療法人明和会  
中通総合病院  
S2病棟 村上美佳子

村上（中通総合病院）：中通総合病院のS2病棟の村上といいます。今回は学会認定・臨床輸血看護師が考える患者中心の輸血医療ということで、私なりに纏めてみたので宜しくお願ひ致します。



## 平成25年度 中央地区輸血講演会 秋田県合同輸血療法委員会

日時： 平成26年3月16日（日）11時00分～15時30分

会場： 秋田赤十字病院 多目的ホール（2F）

住所： 〒010-1495 秋田市上北手猿田字苗代沢222-1

電話： 018-829-5000

### 次第

#### ○ 開会挨拶（11:00）

秋田県合同輸血療法委員会代表世話人

面川 進

#### ○ 教育講演（11:10）

##### 『輸血用血液製剤の取り扱い』

秋田県赤十字血液センター供給係長

寺田 亨

### Lunch Break

#### ○ 討論主題（13:00）

##### 『患者中心の輸血医療 Patient Blood Management』

座長 秋田大学医学部附属病院輸血部

藤島 直仁

山本組合総合病院臨床検査科

村岡 利生

#### 話題提供I（13:05）

- 明和会中通総合病院看護部
- 大館市立総合病院臨床検査科
- 仙北組合総合病院臨床検査科
- 秋田大学医学部附属病院輸血部

村上美佳子  
小塚 源儀  
林崎久美子  
藤島 直仁

#### 話題提供II（14:00）

- 日本赤十字社東北ブロック血液センター

小原 健良

#### ○ 総合討論（14:30）

##### 「患者中心の輸血医療を目指して、今できること」

#### ○ 閉会挨拶（15:25）

※秋田県合同輸血療法委員会への参加は、日本輸血・細胞治療学会、学会認定・臨床輸血看護師の業績に関する基準単位が認められており、出席者には参加証明書を配布します。

# 看護師のためのステップアップ輸血研修会

主 催： 秋田大学医学部附属病院輸血部、秋田県合同輸血療法委員会

共 催： 日本輸血・細胞治療学会東北支部

会 期： 2013年6月30日（日）9:00～16:00

会 場： カレッジプラザ（明徳館ビル2階、秋田市中通2丁目1-51）

参加費： 2,000円（会場整理費及び弁当代込み）

## プログラム

総合司会：秋田県赤十字血液センター 阿部 真

【9:00～11:00】

1. 輸血の実際（使用器具・手技・観察）(30分)

秋田大学医学部附属病院 高橋 智子 先生

2. 血液製剤の種類・取り扱い方 (30分)

秋田県赤十字血液センター 吉田 斎 先生

3. 緊急輸血 (60分)

秋田赤十字病院 藤田 康雄 先生

———— 休憩 ———

【11:15～12:30】

4. 輸血副作用 (30分)

秋田大学医学部附属病院 藤島 直仁

5. 輸血検査 (45分)

中通総合病院 山内 史朗 先生

【12:30～13:00】

———— Luncheon Seminar ———

座長：秋田大学医学部附属病院 藤島直仁

「自己血輸血」(30分)

秋田県赤十字血液センター 面川 進 先生

———— 休憩 ———

別紙1

平成25年度 血液製剤使用適正化方策調査研究事業 研究計画書

平成25年 7月 16日

医薬食品局長 殿

住 所 〒010-0941 秋田市川尻町字大川反233-186  
所属機関 秋田県赤十字血液センター  
フリカヽナ  
研究代表者 氏 名 面川 進 (オモカワスム)  
TEL・FAX 018-865-5541・Fax. 018-865-5585  
E-mail omokawa@akita.bc.jrc.or.jp

平成25年度血液製剤使用適正化方策調査研究を実施したいので次のとおり研究計画書を提出する。

1. 研究課題名 :

医療機関での安全で適正な輸血療法の推進のための合同輸血療法委員会の役割  
-I&Aの実施及び教育研修会の開催によって-

2. 経理事務担当者の氏名及び連絡先 (所属機関、TEL・FAX・E-mail) :

氏 名 阿部 真 所属機関 秋田県赤十字血液センター  
TEL 018-865-5541 FAX 018-865-5585  
E-mail ph00058@akita.bc.jrc.or.jp

### 3. 合同輸血療法委員会組織（現時点では参加予定でも可）

①研究者名	②分担する研究項目	③所属機関及び 現在の専門 (研究実施場所)	④所属機 関におけ る職名
面川 進 (研究代表者)	研究の総括	秋田県赤十字血液センター：輸血学 (輸血認定医) (秋田県内医療機関)	所長
阿部 真 (事務担当者)	適正使用状況調査 施設間情報伝達の確立	秋田県赤十字血液センター：血液事業・輸血 学 (薬剤師) (秋田県内医療機関)	事業部長
天満 和男	教育研修 安全な輸血療法の推進	雄勝中央病院：外科 (医師・輸血療法委員会委員長) (雄勝中央病院・秋田県内医療機関)	副院長
星野 良平	教育研修 安全な輸血療法の推進	市立秋田総合病院：心臓血管外科 (医師・輸血療法委員会委員) (市立秋田総合病院・秋田県内医療機関)	科長
西成 民夫	教育研修 安全な輸血療法の推進	由利組合総合病院：血液内科・輸血学 (医師・輸血療法委員会委員長) (由利組合総合病院・秋田県内医療機関)	診療部長
藤島 直仁	適正使用状況調査・連携 I&A 視察、教育研修	秋田大学医学部附属病院：血液内科・輸血学 (医師・輸血療法委員会副委員長) (秋田大学・秋田県内医療機関)	副部長
村岡 利生	適正使用状況調査 I&A 視察・連携、教育研修	山本組合総合病院：臨床検査・輸血学 (認定輸血検査技師) (山本組合総合病院・秋田県内医療機関)	主任
林崎 久美子	適正使用状況調査 I&A 視察・連携、教育研修	仙北組合総合病院：臨床検査・輸血学 (認定輸血検査技師) (仙北組合総合病院・秋田県内医療機関)	主任
上村 克子	安全な輸血療法の推進 I&A 視察・連携、教育研修	中通総合病院：中央診療部集中治療室 (学会認定臨床輸血看護師・自己血看護師) (中通総合病院・秋田県内医療機関)	師長
樋渡 佳代子	安全な輸血療法の推進 I&A 視察・連携、教育研修	雄勝中央病院：外科病棟・看護教育担当 (看護師) (雄勝中央病院・秋田県内医療機関)	師長
杉野 哲	適正使用状況調査 施設間情報伝達の確立	秋田県健康福祉部医務薬事課：医療行政 (薬剤師) (秋田県庁、秋田県内医療機関)	主幹
三保 憲治	適正使用状況調査 データ集計、I&A 視察 施設間情報伝達の確立	秋田県健康福祉部医務薬事課：医療行政 (事務職) (秋田県庁、秋田県内医療機関)	主任
渡邊 正樹	適正使用状況調査 データ集計、I&A 視察 施設間情報伝達の確立	秋田県健康福祉部医務薬事課：医療行政 (看護師) (秋田県庁、秋田県内医療機関)	技師

#### 4. 研究の概要

##### 研究の背景と目的：

秋田県では、1998年から秋田県医務薬事課、主要医療機関、血液センターで年1回合同輸血療法委員会を開催してきた。血液使用状況調査、それらの情報共有、個々の医療機関の輸血療法委員会の活動報告など毎年に主題を決めた全体討論を既に行っており、血漿使用量削減など一定の適正使用効果が得られてきている。2006年から2009年までと2012年は、外部評価であるInspection & Accreditation(I&A)プログラムを実施し、医療機関の輸血管理体制改善を図った。2010年は先進的な主要医療機関の輸血療法委員会へ、他医療機関輸血部門関係者が参加する機会を構築、標準的な輸血療法委員会の次第（案）を提示するなど、各施設の輸血療法委員会の活性化を促してきた。このように、各施設での輸血管理体制の改善や輸血療法委員会の活発化がなされてきている一方で、中小病院の院内輸血検査部門での血液センターの製剤・検査業務集約による技術的支援への不安や、実際に輸血実施に係わる看護師への輸血の安全性教育の問題が残っている。

本研究では、まず、合同輸血療法委員会で経年的に集計しているアルブミンを含む血液使用状況調査を継続し、輸血実態、適正使用状況を的確に把握する。さらに、輸血・細胞治療学会による外部評価であるInspection & Accreditation(I&A)プログラムを用いて、各施設の輸血検査体制や輸血の安全管理体制についても検討し、各医療機関の問題点を明らかにする。2010年からの継続事業として、合同輸血療法委員会が主導し、輸血に係わる検査技師を対象とした実習研修や看護師への輸血の安全性教育を実施する。今年度は、これらの実習や研修を個別の施設へ出向いて行う。これにより、各医療機関での安全で適正な輸血療法が推進されることを本研究の目的とする。

##### 研究の方法：

1998年から実施してきている詳細な使用状況調査（アルブミン、自己血輸血を含む）に加え、各医療機関の輸血療法委員会の活動状況（症例検討の有無も含む）の詳細と輸血管理料、適正使用加算の取得状況も調査する。さらに、対象施設の血液製剤の適正使用への取り組みや輸血に携わる看護師・検査技師などのコ・メディカルに対する輸血の安全性教育を継続調査する。これらの結果を合同輸血療法委員会で公表、議論することで、血液製剤の適正使用にかかる問題点を共有し、全体への使用適正化方策の周知を図る。

また、合同輸血療法委員会が主催し、輸血検査技術の向上と均一化を目的として血液センターや主要医療機関の輸血認定医や認定輸血検査技師が講師となり、輸血検査実習・研修会を企画する。輸血に係わる看護師に対しては、救急救命医、輸血認定医、学会認定・臨床輸血看護師などを講師に、輸血の実技や知識のステップアップを目的とした研修会を開催し、各医療機関の輸血の安全性教育について浸透を図る。検査技師への実習研修や看護師への教育研修は、地域での開催に加え、個別施設へ出向いての出張開催も実施する。また、平成23年度の調査で、22施設が他施設職員の輸血研修会の参加を了解したことから、中小病院の検査技師や看護師には、他の先進的医療機関での輸血勉強会や輸血セミナーなどへの参加の機会を提供